

秋は「イチゴ栽培」のベストシーズン！ プロが教える“プランター菜園” ～イチゴ編～ 春には自宅でイチゴ狩り♪

タキイ種苗株式会社（所在地：京都市下京区、代表取締役社長：瀧井傳一）は、外出自粛が続く中、おうち時間を活用したイチゴのプランター栽培を提案いたします。秋からおうちでイチゴを栽培し、来春には“自宅でイチゴ狩り”を楽しむ事ができます。

○イチゴは野菜？果物？

たくさんあるフルーツの中でも、イチゴは大人にも子どもにも大人気です。では、イチゴは野菜でしょうか？果物でしょうか？

〈答え〉

店頭ではイチゴは果物として扱われていますが、園芸学上は“野菜”に分類されます。中には例外もありますが、園芸学では実のなる植物で草本類（いわゆる草：年輪がない植物）を野菜として、木本類（いわゆる木：年輪がある植物）を果物として分類しています。そこで、イチゴをはじめ、スイカ、メロンなどは草本ですから野菜に分類されます。

それでは、今回はみなさんが大好きなイチゴのプランター栽培についてご紹介いたします。イチゴはプランターでも育てやすい植物です。プランターで育てる場合は、日当たり、風通しのよい場所で、10月に植えつけるとよいでしょう。春に甘くておいしいイチゴの収穫に向けて、ぜひチャレンジしてみてください♪

♡家庭菜園におすすめのイチゴには以下のような品種があります。



おいしくて、ビタミンCが豊富！

〈 おいCベリー 〉

1果約15g。ビタミンC含有量が特に多く、7粒で1日分のビタミンがとれるともいわれる。甘みと酸味のバランスが良くおいしい。



大きくて、甘くておいしい！

〈 まんぷく2号 〉

通常のイチゴの1.5～2倍にもなる大きな果実をつけるジャンボイチゴ。濃赤色の美しい果実は、甘みが強く柔らかい。



甘酸バランスのよい味わい！

〈 東京おひさまベリー 〉

1果15～18g。果実は、糖度が高く、中まで赤い果肉が特徴。果皮、果肉ともやわらかすぎず、傷みにくい。

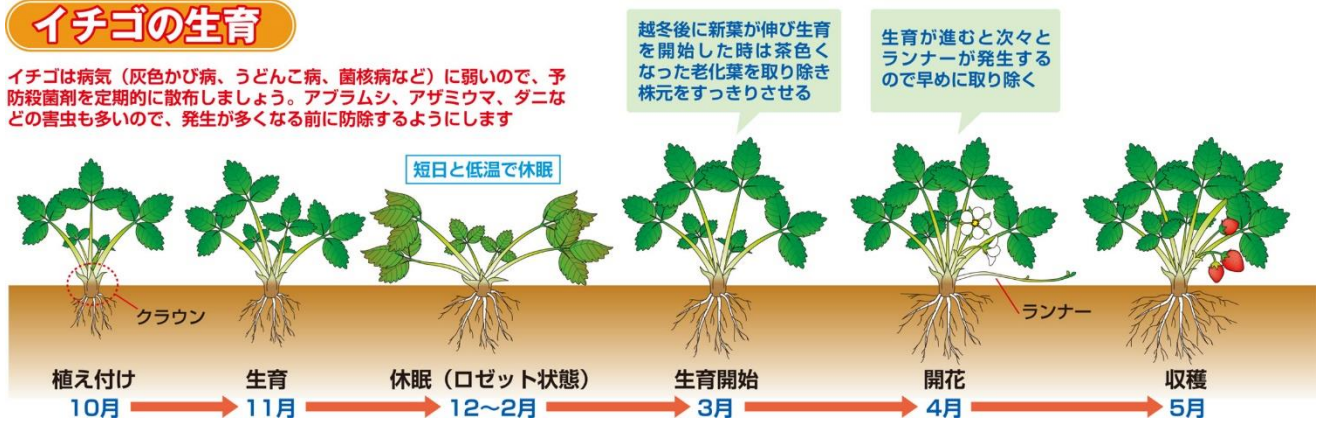
♡ 準備するもの

- ・イチゴの苗
- ・プランター（容量の大きいもの）
- ・土（野菜用の培養土）
- ・鉢底石
- ・ジョウロ
- ・スコップ



イチゴの生育

イチゴは病気（灰色かび病、うどんこ病、菌核病など）に弱いので、予防殺菌剤を定期的に散布しましょう。アブラムシ、アザミウマ、ダニなどの害虫も多いので、発生が多くなる前に防除するようにします



① 苗の植え付け（10月）

植え付け時の注意点は、クラウンの部分埋めてしまわないように浅植えにし、株間 20~30cm で植えます。植え付け後は、プランターの底から水が出るまでたっぷり水をあげてください。
*クラウン…株元から伸びている短い茎のこと



② 水やり

イチゴは乾燥を嫌いますが、水をやりすぎると根腐れの原因になるので、土が乾いていたら水をやるようにしてください。また、休眠中は低温や乾燥には強いですが、極度に乾燥すると枯れてしまうので、土の表面が白く乾いていたら水をやるようにしましょう。



休眠中の様子

③ 追肥（11月、2~3月）

植え付け 1 カ月後と株が休眠から覚めて生育し始める 2~3 月頃に、一般の化成肥料かイチゴ用の肥料を施します。冬の間は株が休眠しているので、追肥をする必要はありません。

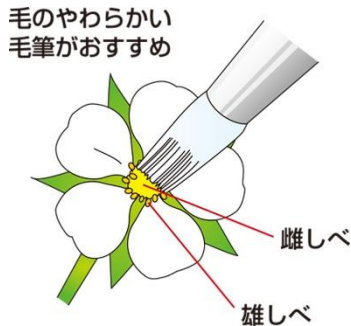
④ 枯れ葉とランナーの切除（3月中旬～）

3月中旬～下旬になると急に株が大きくなります。根ぎわの枯れ葉やランナーを摘み取ります。
＊ランナー…イチゴは親株からつるのように枝を伸ばし先端などに子株を作ります。この枝を「ランナー」あるいは匍匐枝(ほふくし)、匍匐茎(ほふくけい)といいます。



⑤ 人工授粉（4月）

暖かくなってきた4月、花弁が白く中心が黄色くてかわいらしい花が咲きます。開花初期は気温が低くミツバチなどの訪花昆虫が少ないので、受粉がうまく行われないと奇形果ができやすくなります。奇形果の発生を防ぐには、先のやわらかい毛筆や化粧用の筆などで花びらの内側の実になる部分を万遍なく手で、人工授粉するとよいでしょう。



⑥ 収穫（5月）

開花後 30～40 日で収穫できます。家庭菜園では真っ赤に完熟した実が収穫できるのがメリットです！実の裏側も赤く色づいているかどうかを確かめてから収穫しましょう。



春にはご家庭のお庭やベランダでイチゴ狩りも楽しめます♪
ぜひ皆様も、今年の秋からイチゴの栽培にチャレンジしてみてください。